

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

(理容 学科)

科目区分	授業科目	授業時間数	うち実務教員による授業	授業時間数	うちシラバス添付	授業時間数	備考
講義	関係法規・制度	32					
講義・実験・演習	衛生管理	96					
講義	保健	96	○	48			
講義・実験・演習	化粧品化学	64					
講義	文化論	64					
講義・演習	理容技術理論	156	○	156	☆	156	
講義	運営管理	32					
実習・講義・演習・実技	理容実習	912	○	912			
講義・演習・実技	生活文化と作法	32					
講義・実技	造形心理学と表現	32	○	32	☆	32	
実技	保健体育	32					
講義・実習・演習	接客法	33	○	33			
講義・実技・演習	総合学習	92					
実習・講義・演習	トータルビューティ	75	○	75			
実習・実技・講義	総合技術	92	○	92			
実習・講義・演習	選択実習	247					
総授業時数		2,087		1,348		188	
卒業に必要な授業時数		2,010					

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	理容学科(2年制)	2020年度	1.2年
授業科目	時間数/回数	担当教員	
関係法規・制度	32時間/16回	安原 他	
【授業の到達目標】			
<p>国家試験の対策を念頭に置き、まずは理解度をあげて知識を安定させる。小テストの反復により暗記をも定着させていく。後期は国家試験対策として出題確率の高いものからどんどん理解させていく。さらに高得点をとれるよう様々な問題を解くことで、筆記試験合格を目標とする。</p>			
【授業内容】			
<p>理容師法・美容師法による規制と行政による指導監督制度およびその他の関連法規を教育します。また、法規・諸制度を教育するためにその前提となる法制度、衛生行政についての基礎知識についても学びます。</p>			
【授業計画】			
<ol style="list-style-type: none"> 1 法とは何かの説明から条例規則までの説明・問題とまとめ 2 衛生に関する説明と行政機関の説明・問題とまとめ 3 理・美容師法についての説明と定義、免許の説明・問題とまとめ 4 行政処分に関する説明・問題とまとめ 5 管理美容師に関する説明・問題とまとめ 6 昨年度の復習 問題 解説・管理美容師についてのまとめ 問題 7 前回の復習 問題 解説 と 理美容所の開設についてのまとめ 問題 開設者が講ずべき措置についてのまとめ 問題 8 前回の復習 問題 解説 と 理美容所以外での業務、立ち入り検査についてのまとめ問題 違反者に対する処分についてのまとめ 問題 9 前回の復習 問題 解説 と 罰則についてのまとめ 問題 関連法規についてのまとめ 問題 10 全範囲のまとめ 問題 解説 11 国家試験出題率が高い順に問題解説を行う 12 国家試験出題率が高い順に問題解説を行う 13 国家試験出題率が高い順に問題解説を行う 14 国家試験出題率が高い順に問題解説を行う 15 国家試験出題率が高い順に問題解説を行う 16 国家試験出題率が高い順に問題解説を行う 			
【成績評価の方法・基準】			
<p>授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、学力能力判定試験(1年後期、2年前後期の3回)により評価する。</p>			
【授業の方法】			
<p>講義形式を基本とする。</p>			
【教員紹介】			
<p>法律学の学位を有し、14年間専門学校で教鞭を執っている。国家試験の筆記対策授業には定評がある。</p>			

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	理容学科(2年制)	2020年度	1.2年
授業科目	時間数/回数	担当教員	
衛生管理	96時間/48回	池田 他	

【授業の到達目標】

理容・美容業務に携わるにあたり、感染を防止する手段として消毒法を論理的に理解する。感染症について理解を深める。公衆衛生および環境衛生についての専門的な知識の習得を促すことで、公衆衛生の向上に資する努力義務を理解する。国家試験に合格できる学力能力を習得する。

【授業内容】

理容業・美容業に携わるものとして、近代の公衆衛生を理解し、人の健康や感染症を予防することに繋げる。また、感染症についての的確な知識や技能を会得する。感染を防止する手段である消毒法を論理的に学び、理解する。

【授業計画】

1	感染症	発見の歴史		
		法律・感染症の分類		
		侵入経路による分類	消毒法	種類
		病原体別による分類		消毒に必要な条件
		微生物の種類と構造		消毒法各論
		微生物の増殖と環境の影響		消毒薬の概要
		微生物の病原性と人体の感受性		器具の使い方
		汚染・感染・発病と常在細菌叢		消毒薬希釈法
2~27		免疫・予防接種・感染源		理容所・美容所の消毒
		感染経路・宿主の感受性		消毒法・復習
		感染症の予防の3原則		
		空気・飛沫を介する感染症		
		飲食物を介する感染症		
		血液を介する感染症		
		動物を介する感染症		
		感染症・復習		
28		公衆衛生の意義と課題、公衆衛生の歴史		
29		理容師・美容師の公衆衛生、保健所と理容業・美容業		
30		保健		
31		環境衛生の概要		
32		空気環境		
33		衣服・住居の衛生		
34		上・下水道と廃棄物		
35		衛生害虫とネズミ		
36~39		環境保全		
40~41		公衆衛生・環境衛生総復習		
42~48		感染症・消毒・公衆衛生の総復習		

【成績評価の方法・基準】

授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、学力能力判定試験6回(1前期2回・1後期2回・2前期1回・2後期1回)により評価する。

【授業の方法】

講義形式を基本とするが、実験・演習授業も適宜取り入れる。

【教員紹介】

獣医師免許取得。塾講師を経験し、専門学校で教鞭を執っている。国家試験の対策授業に長けている。

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	理容学科(2年制)	2020年度	1.2年
授業科目	時間数/回数	担当教員	
○保健(皮膚)	48時間/25回	小塚 他	

【授業の到達目標】

美容師・理容師として社会に求められている知識と責任を習得することを目的とする。また理容師美容師国家試験に頻出の内容について詳しく取り上げることで、全体の合格率向上を目指す。

【授業内容】

皮膚・毛髪などを主とする、人体の構造、機能に関する科学的、系統的知識を理容・美容技術と関連させながら理解し、学んでいく。

【授業計画】

- 1 「1 皮膚の構造」・皮膚の表面、皮膚の断面、表皮についての授業
- 2 「1 皮膚の構造」・表皮と真皮の境～皮膚の部位差についての授業と第1章の練習問題
- 3 「2 皮膚付属器官の構造」・毛についての授業
- 4 「2 皮膚付属器官の構造」・毛について(後半)、皮脂腺、汗腺、爪についての授業と練習問題
- 5 「3 皮膚の循環器系と神経系」・第3章の授業、第2章と第3章の練習問題
- 6 「4 皮膚と皮膚付属器官の生理機能」・対外保護作用～知覚作用と皮膚反射についての授業
- 7 「4 皮膚と皮膚付属器官の生理機能」・分泌排泄作用～免疫・解毒・排除作用についての授業
- 8 「4 皮膚と皮膚付属器官の生理機能」・ビタミンD形成作用～爪のはたらきについての授業と第4章の練習問題
- 9 「5 皮膚と皮膚付属器官の保健」・皮膚と全身状態～皮膚と体内病変についての授業
- 10 「5 皮膚と皮膚付属器官の保健」・皮膚の水分と脂の状態についての授業
- 11 「5 皮膚と皮膚付属器官の保健」・皮膚・付属器官とホルモン～皮膚の保護と手入れについての授業
- 12 「5 皮膚と皮膚付属器官の保健」・毛の保護と手入れ～おしゃれによる皮膚トラブルについての授業
- 13～14 期末試験対策 前期期末試験直前の復習
- 15 「6 皮膚と皮膚付属器官の疾患」・皮膚の異常とその種類～皮膚疾患の治療法についての授業
- 16 「6皮膚と皮膚付属器官の疾患」・皮膚炎と湿疹・蕁麻疹・薬疹についての授業
- 17 「6皮膚と皮膚付属器官の疾患」・日光皮膚炎～湿疹患者のケアについての授業
- 18 「6皮膚と皮膚付属器官の疾患」・口唇の疾患～下肢静脈瘤についての授業
- 19 「6皮膚と皮膚付属器官の疾患」・分泌異常による皮膚疾患についての授業
- 20 「6皮膚と皮膚付属器官の疾患」・化膿菌による皮膚疾患～真菌による皮膚疾患についての授業
- 21 「6皮膚と皮膚付属器官の疾患」・衛生害虫による皮膚疾患～感染症の皮膚疾患の予防についての授業
- 22 「6皮膚と皮膚付属器官の疾患」・毛と爪の疾患～皮膚の腫瘍についての授業
- 23～25 国家試験対策

【成績評価の方法・基準】

授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、学期末学力能力判定試験4回(各学年・前期・後期)により評価する。

【授業の方法】

講義形式を基本とする。

【教員紹介】 ○実務経験のある教員による授業

講師は、企業健康管理室や内科クリニック業務で得た知識と経験をもとに身近な経験談による分かりやすい授業を展開する。

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	理容学科(2年制)	2020年度	1.2年
授業科目	時間数/回数	担当教員	
保健(人体)	48時間/24回	伊藤 他	

【授業の到達目標】

一般目標(GIO):ヒトの体についてその成り立ちと働きを説明できるとともに、理容・美容の現場においてその知識を踏まえ、適切に効率よく施術を行うことができる。

到達目標(SBO):[~7月]身体の構成とその動きを理解し、特に頭部への施術を安全に効率よく実施できる。
[~12月]身体内の情報の動きを理解し、お客様が安心して施術を受けられるよう配慮できる。
[~2月]身体内の物質の動きを理解し、特に体幹への施術を安全に効率よく実施できる。

【授業内容】

人体における基本的な構造と生理的機能を理解し、現場に適用できるようにする。
また生命に対する倫理観を育てる。

【授業計画】

- 1 人体各部の名称・頭部、顔部、頸部の体表解剖学
- 2 細胞から系統まで・体液のあらまし
- 3 血液のあらまし・骨の種類と構造 骨の連結
- 4 骨格器系とそのはたらき・骨の保健
- 5 筋の種類とその特徴・主な骨格筋とそのはたらき、顔面筋とその表情運動
- 6 試験対策
- 7 試験復習
- 8 神経系の成り立ち・中枢神経とそのはたらき
- 9 末梢神経とそのはたらき・神経系の保健
- 10 神経系・視覚
- 11 聴覚・平衡感覚 味覚 嗅覚 皮膚感覚 深部感覚と内蔵感覚
- 12 試験対策
- 13 試験復習
- 14 呼吸器系(1):呼吸器の構造 呼吸器系(2):呼吸のしくみ
- 15 循環器系(1):血液の成分 循環器系(2):心臓の構造と機能
- 16 循環器系(3):大循環と小循環 循環器系(4):リンパ管と免疫系
- 17 消化器系(1):消化器の構造 消化器系(2):消化の流れ
- 18 消化器系(3):消化酵素 消化器系(4):老廃物と泌尿器系
- 19 身体内の物質移動のまとめ(試験対策演習) 2年次前期・学力能力判定期末試験
- 20 身体内の物質移動のまとめ(試験解答解説) 身体の構成と動作のおさらい(1)
- 21 身体の構成と動作のおさらい(2) 身体内の情報伝達のおさらい(1)
- 22 身体内の情報伝達のおさらい(1) 2年次後期学力能力判定期末試験 人体の構成・機能のまとめ(試験解答解説)
- 23 身体の構成と動作(国家試験対策) 身体内の情報伝達(国家試験対策)
- 24 身体内の物質移動(国家試験対策) 人体の構成と機能の総合演習(国家試験対策)

【成績評価の方法・基準】

授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、学期末学力能力判定試験4回(1前期・1後期・2前期・2後期)により評価する。

【授業の方法】

講義形式を基本とする。

【教員紹介】

薬剤師免許取得。13年間専門学校で教鞭を執り、国家試験の筆記対策授業には定評がある。

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	理容学科(2年制)	2020年度	1.2年
授業科目	時間数/回数	担当教員	
香粧品化学	64時間/32回	小川 他	

【授業の到達目標】

- ・香粧品の社会的意義を学ぶとともに原料について、その分類・配合目的・対象品目を説明できる。
- ・基礎香粧品およびメイク用香粧品、頭皮用香粧品、芳香製品についての種類・特徴を説明できる。
- ・国家試験に合格できる学力能力を習得する。

【授業内容】

理容・美容の業務でお客様に使用する医薬部外品等の薬剤を理解する。各種香粧品の分類・成分・性状・特徴及びその対象となる人体各部の性質について理解する。また、使用目的に応じて、適切な香粧品を選び安全かつ効果的に使用することを学びます。

【授業計画】

- 1 香粧品の社会的意義と品質特性・香粧品の規制
- 2 香粧品の安定性と取り扱い上の注意・香粧品と安全性
- 3 香粧品の対象となる人体各部の性状1・香粧品の対象となる人体各部の性状2、水性原料
- 4 油性原料1・油性原料2
- 5 界面活性剤1・界面活性剤2
- 6 高分子化合物・色材1
- 7 色材2・香料
- 8 その他の配合成分・ネイル・まつ毛エクステンション用材料
- 9 香粧品原料のまとめ(試験対策)
- 10 試験解答解説
- 11 皮膚洗浄用香粧品1・皮膚洗浄用香粧品2、化粧水
- 12 クリーム・乳液1・クリーム・乳液2
- 13 その他の基礎香粧品・ベースメイクアップ香粧品1
- 14 ベースメイクアップ香粧品2・ポイントメイクアップ香粧品1
- 15 ポイントメイクアップ香粧品2・シャンプー剤
- 16 スタイリング剤・パーマ剤
- 17 ヘアカラー製品1・ヘアカラー製品2、育毛剤
- 18 芳香製品・特殊香粧品
- 19 各種香粧品のまとめ1(試験対策)・各種香粧品のまとめ2(試験対策)
- 20 頭皮毛髪用香粧品(3): 香粧品における酸化・還元
- 21 頭皮毛髪用香粧品(4): パーマネントウエーブ用剤・頭皮毛髪用香粧品(5): 香粧品における酸・塩基
- 22 頭皮毛髪用香粧品(6): ヘアカラー剤・頭皮毛髪用香粧品(7): 香粧品とその成分
- 23 頭皮毛髪用香粧品(8): 育毛剤と除毛剤・特殊香粧品(1): 香粧品とその性状
- 24 特殊香粧品(2): 芳香製品・頭皮毛髪用香粧品のまとめ(試験対策演習)
- 25 頭皮毛髪用香粧品のまとめ(試験解答解説)
- 26 物理化学の基礎のおさらい・香粧品の規制と原料のおさらい(1)
- 27 皮膚用香粧品の成分と適用のおさらい(1)(2)
- 28 頭毛用香粧品の成分と適用のおさらい(1)(2)
- 29 各種香粧品のまとめ(試験対策演習)
- 30 各種香粧品のまとめ(試験解答解説)
- 31 香粧品の規制と原料(国家試験対策)・皮膚用香粧品の成分と適用(国家試験対策)
- 32 頭毛用香粧品の成分と適用(国家試験対策)・香粧品化学の総合演習(国家試験対策)

【成績評価の方法・基準】

授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、学期末学力能力判定試験4回(各学年・前期・後期)により評価する。

【授業の方法】

講義形式を基本とするが、実験や演習授業も適宜取り入れる。

【教員紹介】

理科の中学校、高等学校教諭の免許状取得。修士の学位を有し、幅広い知識で説得力のある授業を展開する。

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	理容学科(2年制)	2020年度	1.2年
授業科目	時間数/回数	担当教員	
文化論	64時間/32回	片山 他	

【授業の到達目標】

日本の理容美容の歴史、西洋・日本のファッション文化史・和装・洋装の礼装を理解し、国家資格の取得を目標とする。

【授業内容】

さまざまな髪型、化粧、服装の変遷流行を社会背景や時代の要請と結びつけて学びます。流行のメカニズムを知り、時代を読みデザインを起こすために、トータルバランスを含めて理解する。

【授業計画】

- | | |
|----|--|
| 1 | 総論・古代エジプト |
| 2 | 古代ギリシャ・ローマ・ゲルマン |
| 3 | 中世ヨーロッパ |
| 4 | ヨーロッパ16・17世紀 |
| 5 | ヨーロッパ18世紀 |
| 6 | ヨーロッパ19世紀 |
| 7 | ヨーロッパ1910年から1920年代 |
| 8 | ヨーロッパ1930年から1940年代 |
| 9 | 学力能力判定試験の解説によるまとめ |
| 10 | イントロダクション、日本の理容業・美容業の歴史(発生～現代) |
| 11 | ファッション文化史 日本編(縄文・弥生・古墳時代・飛鳥・奈良・平安時代) |
| 12 | ファッション文化史 日本編(平安末・鎌倉・室町・戦国時代・戦国末・安土桃山時代) |
| 13 | ファッション文化史 日本編(江戸時代) |
| 14 | ファッション文化史 日本編(江戸時代・明治・大正・昭和20年まで) |
| 15 | ファッション文化史 日本編(明治・大正・昭和20年まで ②) |
| 16 | ファッション文化史 日本編(1945年～1970年代) |
| 17 | ファッション文化史 日本編(1980年代～2000年以降) |
| 18 | まとめ |
| 19 | 学力能力判定試験の解説による課題の理解・錯視について |
| 20 | 1940年から1950年代 1960年代 |
| 21 | 1970年代 |
| 22 | 1980年代 |
| 23 | 1990年代から現在 |
| 24 | ヨーロッパ文化史の復習 |
| 25 | 和装・洋装の礼装 |
| 26 | 日本編文化史の復習① |
| 27 | 日本編文化史の復習② |
| 28 | 日本編文化史の復習③ |
| 29 | 総合学習 |
| 30 | 学力能力判定試験の解説による課題の理解 |
| 31 | 国家試験対策・まとめ① |
| 32 | 国家試験対策・まとめ② |

【成績評価の方法・基準】

授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、学期末学力能力判定試験4回(1前期・1後期・2前期・2後期)により評価する。

【授業の方法】

講義形式を基本とする。

【教員紹介】

美術大学を卒業後、デザイナー、イラストレーターとして書籍、PV、広告などで活躍中。ファッションの歴史を楽しく解説する。

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	理容学科(2年制)	2020年度	理容学科 1.2年
授業科目	時間数/回数	担当教員	
○理容技術理論	156時間/133回 1年次・92時間/80回 2年次・64時間/53回	☆小笠原 他	

【授業の到達目標】

理論に基づいた正確な技術の習得の為に、理容技術の基礎となる理論を学び、国家資格取得を目標とする。

【授業内容】

技能の習得にあたり、各技術の基礎を確実に身につけるためのものである。具体的にいろいろな技術を学ぶ前に何のためにその技術を学ぶのかを理容技術理論で裏付けし、理解するものである。

【授業計画】

1～3	序章 理容技術の基礎		
4～9	↓ 理容用具		
10～15		↓ シェービング	
16			
17		↓ エステティック	
18～29			
30～35	総合学習		
36	学力能力判定試験		
37～40	学力能力判定試験の解説によるまとめ		
41	ヘアデザイン 理容クリニック		
42	↓	ヘアカットイング	シャンプーイング & リンシング
43～48			
49～52		↓	
53		ヘアセッティング	理容マッサージ
54			
55～65			
66			パーマメントセット
67			↓
68～70			ヘアトリートメント
71～73			↓
74～77	総合学習		
78	学力能力判定試験		
79～80	学力能力判定試験の解説によるまとめ		
81～83	ヘアカラーリング		
84～88	スカルプトリートメント		
89～101	総合学習		
102～107	学力能力判定試験対策		
108～109	学力能力判定試験		
121～126	総合学習		
127	学力能力判定試験		
128	学力能力判定試験の解説によるまとめ		
129～133	国家試験対策		

【成績評価方法】

授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、学期末学力能力判定試験4回(1前期・1後期・2前期・2後期)により評価する。

【授業の方法】

講義形式を基本とするが、演習授業も適宜取り入れる。

【教員紹介】 ○実務経験のある教員による授業

担当教員は、担当教員は理容室での経験をいかし、現場で必要とされる技術の裏づけとなる理論を教授する。

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	理容学科(2年制)	2020年度	1.2年
授業科目	時間数/回数	担当教員	
運営管理	32時間/16回	川端	

【授業の到達目標】

経営者の視点を理解し、従業員として活躍するためにも、また将来自らが経営者として、活躍するためにも重要であることを理解し、国家試験に合格できる学力能力を習得する。

【授業内容】

「運営管理」では、よりよい理容・美容サービスの提供と顧客満足について学びながら、将来のキャリアプランを構築していく授業です。

【授業計画】

- 1 経営とは・経営者とは
- 2 理容業・美容業の経営について・資金の管理(資金管理の重要性)
- 3 資金の管理(コストを管理する、税金について)・人という資源(人の能力を高める)
- 4 人という資源(給与、評価、労働者の権利)・健康・安全な職場環境の実現(健康管理)
- 5 健康・安全な職場環境の実現・従業員としての視点から(社会保険)
- 6～7 期末試験対策・期末試験解説
- 8 キャリアプランの重要性・自分のキャリアプランを作ろう
- 9 サービス・デザイン(顧客が求める価値とは)(価値の多様性について)
- 10 マーケティング(マーケティング・ミックスの要因)(サービスのシステム化)
- 11 サービスにおける人の役割(接客の実践)(接客におけるトラブル)
- 12 期末試験対策・期末試験解説
- 13～14 復習総まとめ
- 15～16 国家試験対策

【成績評価の方法・基準】

授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、学期末学力能力判定試験3回(1後期・2前期・2後期)により評価する。

【授業の方法】

講義形式を基本とする。

【教員紹介】

経済学の学士、政策科学、学術の2つの博士の学位を有し、経営や管理についてわかり易く授業を展開する。

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	理容学科(2年制)	2020年度	理容学科1.2年
授業科目	時間数/回数	担当教員	
○理容実習	912時間/381回 1年次・408時間/177回 2年次・504時間/204回	中村 他	

【授業の到達目標】

理容技術理論に基づき、理容師として必要な技術の修得をめざす。
また国家試験に合格できる技術能力を習得する。

【授業内容】

理容師として身につけておくべき技術や知識を理容理論と並行して理解していく。理論の意味を理解して、基礎技術を身につける。美や造形のデザイン感覚、クリニック的な知識等、応用へと繋がるように理解させる。

【授業計画】

1～2	ヘアcutting			
3～11	(ワンレングス)	ワインディング(Gライン)		
12～21	↓	↓	シェービング	
22～42	ヘアcutting(短髪型)			コンテスト対策
43～72	↓	↓	↓	サマーフェスタ作品制作
73～75	技術能力判定試験			
76～78	技術能力判定試験の解説によるまとめ			
79～84	ヘアcutting(長髪型)		シェービング	
85～141	ヘアcutting	ワインディング	シャンプー(バック)	コンテスト対策
142～149	↓	↓	↓	
150～152	技術能力判定試験			
153～155	技術能力判定試験の解説によるまとめ			
156～177	国試課題cutting	国試課題シェービング		実務実習
178～242	↓	↓	シャンプー(リア)	
243～264	↓	↓	↓	サマーフェスタ作品制作
265～267	技術能力判定試験			
268～270	技術能力判定試験の解説によるまとめ			
271～302	↓	↓		コンテスト対策
303～305	技術能力判定試験			
306～308	技術能力判定試験の解説によるまとめ			
309～373	国試対策(cutting)	国試対策(シェービング、セット)		
374～381	国試対策			

【成績評価の方法・基準】

授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、学期末技術能力判定試験4回(1前期・1後期・2前期・2後期)により評価する。

【授業の方法】

実習形式を基本とするが、講義・演習・実技も適宜取り入れている。

【教員紹介】

担当教員は、理容師としてのサロン経験をいかし、現場で必要とされる知識、技術、接客力を教授する。

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	理容学科(2年制)	2020年度	1.2年
授業科目	時間数/回数	担当教員	
生活文化と作法	32時間/15回	斉藤 他	

【授業の到達目標】

日常生活の中での礼儀作法やマナーを、学校の中での集団生活を通じて習得することを目標とする。
基本的社会規範やコミュニケーション技術を習得する。

【授業内容】

理容師として、社会人として、一般的に身に付けておきたい常識やマナーについて学び、集団の中での個々の役割、立場、振る舞いなどを考えていく授業。

【授業計画】

- 1 掃除の重要性
- 2 モラルについての研究
- 3 ツキを呼ぶ魔法の言葉・美容で感動を与える
- 4 美文字・ボールペンで美しい字を書く・縦書き・横書き
- 5 漢字検定・ビジネスシーンでよく使う漢字の読み書き
- 6 前期振り返り・日常生活におけるマナーと接客業のかかわりについて・レポート①
- 7 作文(小論文)の書き方
- 8 二十四節季・日本の四季
- 9 手紙の書き方・時候の挨拶・季節の挨拶・お礼状と縦書き封筒
- 10 履歴書の書き方・面接時の注意点
- 11 後期振り返り・日常生活におけるマナーと接客業のかかわりについて・レポート②
- 12 履歴書復習・自己PR文の書き方・就活対策
- 13 テーブルマナー研修
- 14 ビジネスマナー①・敬語・ビジネス語・謝罪の仕方
- 15 ビジネスマナー②・名刺の渡し方・来客対応・席次・お茶の出し方

【成績評価の方法・基準】

授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、2回のレポートにより評価する。

【授業の方法】

講義と演習を基本形式とし、実技を適宜取り入れる。

【教員紹介】

担当教員は、理容師としての実務経験を活かし、美容師に必要なエチケット・マナーについて教授する。

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	理容学科(2年制)	2020年度	1.2年
授業科目	時間数/回数	担当教員	
○造形心理学と表現	32時間/17回	☆①藤田 ☆②菊池	

【授業の到達目標】

- ・デッサンを通してものを正確にみる力を養い、的確な判断(一人一人に合う髪型等について)が出来るようになる。
- ・ヘアデザイン画において創作的な技術を身に付け、ヘアデザイン画が描けるようになる。
- ・色彩論の基礎を学びながら、実践的な造形表現力を身に付けることを目的とする。

【授業内容】

デッサンの基礎技術を学ぶ。
色彩の心理的効果や視覚効果、配色・コーディネート基礎などを学びつつ、混色のやり方や色彩構成などの基礎技術を学ぶ。

【授業計画】

- 1 授業目的と流れ、課題、道具、ヘアデザイン画、デッサンについての説明
顔のパーツの位置づけの数字的思考方について説明・目と鼻の説明、教科書のトレース練習
- 2 唇と輪郭の説明、トレース練習
- 3 斜め、横など正面以外の顔の描き方について説明・それぞれの角度をトレース練習
- 4 髪の毛の描き方の説明、トレース練習。教科書を参考に顔と髪を描き提出
- 5 課題説明、課題の下準備、構図についての説明(参考資料引用)・下準備が終わり次第描き始める
- 6 課題の続き。描く上でのポイントなど個別での指導も行う
- 7 課題の続き。早く進んでいる生徒へヘアデザイン画再度説明、作成
- 8 課題の続き。仕上げのポイントなど説明、仕上げで提出
- 9 イントロダクション、色の仕組みについて・トーン表の作成
- 10 ミニテスト、色相・明度・彩度のプリント作成・色の心理的効果について
- 11 ミニテスト、色の視覚効果(対比・同化)・錯視について(「美容とデザイン」について含む)
- 12 ミニテスト、配色について・Work Paperの作成
- 13 ミニテスト、Work Paperの作成・色相環の作成、混色について
- 14 色相環の作成・色彩構成
- 15 色彩構成
- 16 世界の様々な造形表現について、色彩構成・色彩構成発表
- 17 復習・まとめ

【成績評価の方法・基準】

授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、下記内容により評価する。
(1前期)教科書を参考にした顔、髪の前デッサンを提出
(1後期)課題作品 A3イラストボードにデッサン(写真を参考。主に顔、髪を中心としたもの)
(2前期)各提出物、ミニテスト及び授業態度により総合的に評価

【授業の方法】

講義1/3、実技2/3として構成している。

【教員紹介】 ○実務経験のある教員による授業

- ①美術館勤務・大学の講師経験から形が持っている心理作用を分かりやすく教授する。
- ②造形学の修士の学位を有し、作家活動の経験から、専門分野である視覚効果造形学の授業を展開する。

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	理容学科(2年制)	2020年度	1.2年
授業科目	時間数/回数	担当教員	
保健体育	32時間/12回	中村 他	
【授業の到達目標】			
<ul style="list-style-type: none"> ・各種運動を通して、公正、協力、責任などの態度を身に付ける。 ・体育の授業力向上に向け、自己学習課題を明確にもち、主体的に学習に取り組む。 			
【授業内容】			
綱引き、バレーボール、ドッジボール、バスケットボール、バドミントン競技を行い、チームを強化し、チームワークのあり方を学んでいく。			
【授業計画】			
<ol style="list-style-type: none"> 1 綱引きを通して、行動力、協力体制を培う 2 綱引き競技 勝敗から主体的に勝利すべく道筋を研究する 3～4 バレーボール競技 5～6 ドッジボール競技 7 綱引きを通して、自己課題への到達を目指し、チームの役割を担う力を養う 8 綱引き競技 勝敗から主体的に勝利すべく道筋を研究する 9～10 バスケットボール競技 11～12 バドミントン競技 			
【成績評価の方法・基準】			
授業への参加を評価する。 全時間出席90点、1～2時間欠・80点、2～4時間欠70点、それ以上の欠時間を60点とし、授業における発言や態度(10点)を評価する。			
【授業の方法】			
実技を通して構成している。			
【教員紹介】			
中学校・保健体育の教諭免許状取得。スポーツを通して、チームビルディングの大切さを教授する。			

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	理容学科(2年制)	2020年度	1.2年
授業科目	時間数/回数	担当教員	
○接客法	33時間/11回	中村 他	
【授業の到達目標】			
・ビジネスマナーを理解し、理美容業における接客の技術を習得し、サロンで必要不可欠なコミュニケーション能力を身に付け、実務実習にて高評価を得ることを目標とする。			
【授業内容】			
サロンの接客業務を学び、ロールプレイングにより、接客スキル向上させていく。また、ブレinstーミングにより、接客に対する思いを共有していく。			
【授業計画】			
1	サービス接遇の必要性の理解・挨拶・お辞儀		
2	言葉遣い・プラス言葉とマイナス言葉・敬語・接客用語・よさね言葉		
3	立ち振る舞い・身だしなみ		
4	電話対応		
5	伝える力		
6	コミュニケーション能力		
7	レセプション業務		
8	実務実習時の課題提示・職場の基本モラル		
9	実務実習報告・カウンセリング技術		
10	カウンセリング技術		
11	マナー研修・人に与える印象と接客マナー		レポート提出
【成績評価の方法・基準】			
授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、最終回のレポートにより評価する。			
【授業の方法】			
全体の2/3を講義、1/3を実習・演習として構成している。			
【教員紹介】 ○実務経験のある教員による授業			
担当教員は、理容師の人材育成の経験をいかし、現場で必要とされる知識、接客力を教授する。			

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	理容学科(2年制)	2020年度	理容学科 1.2年
授業科目	時間数/回数	担当教員	
総合学習	92時間/37回	篠崎 他	

【授業の到達目標】

現代の社会問題について、現況と解決策を考え、社会との関わりを学習する。理容師としてだけでなく、社会貢献できる人材の育成を目標とする。

【授業内容】

講習・福祉活動・海外研修・国家試験筆記対策等を通して総合的に学ぶ。

【授業計画】

1	江ノ島ビーチクリーン・AED講習	レポート①
2	ボランティア	
3	防災体験デー参加:野方警察	
4	ボランティア	
5	悪徳商法被害防止講習:東京都消費生活総合センター	
6	ボランティア	
7	インターネット・SNSのトラブル防止講習:東京都消費生活総合センター	
8	ボランティア	
9	年金セミナー①:中野年金事務所	
10	ボランティア	
11	選挙セミナー:選挙管理委員会	
12	租税教室 東京都租税教育推進協議会	
13	防災体験デー参加:野方警察	
14	海外研修事前学修研修旅行・事前学習①フランスについて(オリエンテーション・日程)	
15	研修旅行・事前学習② 交流会・WELLAアカデミー研究	
16	研修旅行・事前学習③ パリの芸術・ルーブル美術館について(自由行動案)	
17	ボランティア	
18	研修旅行・事前学習④ フランス・パリの歴史・文化・パリ市街地について(最終日程)	
19	ボランティア	
20	研修旅行・事前学習⑤ 交流会準備・練習	
21	研修旅行・事前学習⑥ 交流会準備・リハーサル	
22	ボランティア	
23	海外研修 パリにおける美容、ファッション、風俗、習慣等を学ぶ	レポート②
24	ボランティア	
25	海外研修 まとめ・振り返り	
26	ボランティア	
27~37	国試対策・筆記模擬	

【成績評価の方法・基準】

授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、2回のレポートにより評価する

【授業の方法】

講義・演習・実技を通して授業を行う。

【教員紹介】

担当教員は、理容師としての経験を活かし、今後美容師に必要とされる幅広い学びを教授する。

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	理容学科(2年制)	2020年度	理容学科1年
授業科目	時間数/回数	担当教員	
〇トータルビューティ(ネイル・メイク)	75時間/29回	入口 他	

【授業の到達目標】

(ネイル)商材知識、操作方法を理解し、JNEC主催ネイリスト技能検定3級合格を目指す
(メイク)メイクアップ検定3級資格取得を目指す

【授業内容】

(ネイル)ネイリストベーシックのマスター。ネイルケア、ネイルアートに関する基本的な技術及び知識の習得
(メイク)ナチュラルメイクのベーシックの技術の習得

【授業計画】

	メイク	ネイル
1	メイク概論	
2	スキンケア	
3~5	ベースメイク	ネイル理論
6	ポイントメイク	↓
7	↓	テーブルセッティング
8		
9~11	↓	ケア技術
12	色彩	↓
13		フラワーアート
14~15	検定対策	
16	↓	ホリッシュ塗布
17		通しトレーニング
18	↓	↓
19~21	検定試験	
22~23	ポイントメイク応用	
24~25	課題制作	
26	課題発表	
27~29		検定対策

【成績評価の方法・基準】

(ネイル)出席70% ネイル検定3級合否30%として評価する
(メイク)出席70% 検定試験評価30%として評価する。

【授業の方法】

実習形式を基本とするが、講義・演習も適宜取り入れる。

【教員紹介】

〇実務経験のある教員による授業
エステサロン業務の経験をいかし、現場で必要とされる知識、技術、接客力を教授する。

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	理容学科(2年制)	2020年度	理容学科 1.2年
授業科目	時間数/回数	担当教員	
○総合技術	92時間/37回	中村 他	

【授業の到達目標】

様々な理容の技術に触れ、知識と技能を習得する。オムニバス形式の授業中で、業界に求められている技術を研究する力を培う。

【授業内容】

基礎から最新の技術まで、理容に関する幅広い知識と技術を実践を通して身に付ける授業。

【授業計画】

1	ヘアショーによる業界の理解	
2	B/B TALK見学による業界の理解	レポート①
3	ウィッグ講習	
4	シザーズ講習	
5	メイクデモンストレーション	レポート②
6	カットデモンストレーション	
7	フォト講座	
8	サロNSTAイルスト講話	レポート③
9	ヘアショーの実践	
10～22	ロレアルカラー検定対策	
23	校内技術コンテスト	
24	二重講習	
25	ブライダルデモンストレーション見学	
26～28	サロNSTAイル・外部講師(ザンギリ)	レポート④
29	ヘアショー見学による研究	
30	サロNSTAイルスト講話	
31	メイクデモンストレーション	
32	カットデモンストレーション	
33	ヘアショーの実践	
34	ライトドライヤー講習	
35	校内技術コンテスト	
36～37	サロNSTAイルスト講話	

【成績評価の方法・基準】

授業への参加を単位認定のための基礎条件とし、4回のレポートを評価する

【授業の方法】

実習・実技を基本とするが、講義も適宜取り入れる。

【教員紹介】 ○実務経験のある教員による授業

担当教員は、サロンワークの経験をいかし、理容室における時代のニーズに合わせた技術や知識をより実践的に教授する。

窪田理容美容専門学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
職業実践専門課程 衛生専門課程	理容学科(2年制)	2020年度	理容学科 1.2年
授業科目	時間数/回数	担当教員	
選択(理容・エステ)	247時間/89回 (1前期・41時間、1後期・100時間、 2前期・87時間、2後期・19時間)	篠崎 他	

【授業の到達目標】

(理容)理容技術の応用を習得することを目指す。

(エステ)日本エステティック協会実技力確認実技試験の合格レベルまで技術向上をはかることを目標とする。

【授業内容】

(理容)理容技術の応用として、営業の現場で行われているお客様志向に対応できる知識と技術の理解を目的とする。

(エステ)フェイシャルエステティック・ボディエステティック・ワックス脱毛・エステティック機器等知識と技術の向上を目的とする。

【授業計画】

理容		エステ	
1	開閉練習・姿勢	エステティックの理論	
2~3	メンズカット	↓	
4	↓	運動生理学・栄養学	
5~6	ワインディング	↓	
7~8	↓	ボディエステティック	
9~12	↓	↓	
13	メンズカット	↓	
14~18	↓	エステティック機器学	
19	シェービング	↓	
20	↓	↓	
21~22	カット	↓	
23~25	↓	ワックス脱毛	
26	↓	↓	
27	↓	フェイシャル	
28~31	↓	↓	
32~46	↓	生命活動とホメオスタシス	
47~54	↓	↓	
55~59	レディースカット(外部講師)	↓	
60	クラシカル(外部講師)	↓	
61~63	↓	認定試験対策	
64~66	クラシカル復習	↓	
67~76	メンズカット	↓	
77~80	スタンドシャンプー	↓	
81~83	↓ サロンワーク講義	↓	
84~86	↓	↓	
87~88	↓	↓	
89	↓	↓	

【成績評価の方法・基準】

授業への参加を評価する。

全時間出席90点、1~2時間欠・80点、2~4時間欠70点、それ以上の欠時間を60点とし、

授業における発言や態度(10点)を評価する。

【授業の方法】

実習形式を基本とするが、講義・演習も適宜取り入れる。

【教員紹介】 ○実務経験のある教員による授業

担当教員は、サロンワークの経験をいかし、理容室における時代のニーズに合わせた技術や知識をより実践的に教授する。

成績の分布表

《理容学科》

2019年度

客観的な指標の算出方法						
履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する(100点満点で点数化)						
学科名	理容学科	学年	1学年	学生数	13	
成績の分布						
指標の数値	～50点	50～60点	60～70点	70～80点	80点～90点	90点～100点
人数	0人	0人	0人	3人	5人	5人
下位1/4に該当する人数		4人				
下位1/4に該当する指標の数値		85点以下				

成績評価に関する基本指針

理容学科

【目的】

シラバスに授業の内容、到達目標、成績評価の方法を記載し、学修成果として各授業科目の評価を行い、

厳格かつ適正に単位を与えている。

学業成績は、授業科目ごとに行う試験(定期試験・実技試験等)によって評価される。

履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出(100点満点で点数化)し、その結果を指標の数値で分布している。

成績の分布表は、科目ごとに学生の授業理解度を把握し、一定基準を下回る学生への指導、留年・退学の警告、優秀者の選出、及び教員の授業内容や方式の改善等を図るための資料として利用する事を目的とする。

・下記成績分布表参照

○●●●●年度

客観的な指標の算出方法						
履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する(100点満点で点数化)						
学科名	●●科	学年	1学年	学生数	●●	
成績の分布						
指標の数値	～50点	50～60点	60～70点	70～80点	80点～90点	90点～100点
人数	●人	●人	●人	●人	●人	●人
下位1/4に該当する人数 ●人						
下位1/4に該当する指標の数値 ●●点以下						